

第9回「西高フォーラム」

—講演とコーラス—

ご案内



共催 一般財団法人西高会
都立西高同窓会
後援 杉並区教育委員会

一般財団法人西高会と都立西高同窓会では、本年も杉並区教育委員会の後援を得て、「西高フォーラム」を下記の通り開催いたします。土曜の午後のひととき、お楽しみ頂きますようご案内申し上げます。
(このご案内は、近隣の方々や西高関係者に行っております。)

記

- 日時 : 2013年4月20日(土) 13時~14時50分 開場12時30分
- 会場 : 都立西高視聴覚ホール(西高正門を歩いて左側の建物)
- 入場無料、車でのご来場はご遠慮願います。

第1部 コーラス 『復興によせる合唱のひびき』 13:00~13:20
女声合唱団「ひまわり」(※)
指揮 : 長澤 明 正 (元西高教諭)
ピアノ伴奏 : 平山 美帆子 (西27期)

『復興によせる合唱のひびき』

- ① 「花の詩」より「向日葵」
- ② 「坂の上の雲」主題歌より「STAND ALONE」
- ③ オーツレミオ
- ④ 花は咲く

(※)女声合唱団「ひまわり」は、1981(昭和56)年、西高PTA文化部主催の文化講演会「合唱」をきっかけに発足。元西高の音楽・長澤明正先生のご指導のもと、PTAと卒業生の保護者で構成、幅広い活動をしている女声合唱団です。

第2部 講演 『フクシマに住んで考えること』 13:30~14:50
清水 修二氏 (西19期)
国立大学法人福島大学経済経営学類教授(前副学長)

西高から京大に進み、大学院を出て福島大学経済学部へ赴任したのが1980年で、以来もう33年になります。たまたま原発銀座の近くで仕事をするようになった縁で「原子力開発と財政」をテーマに研究をするようになりました。それで1991年にはチェルノブイリ原発事故の被災地を訪れましたし、スイスの原子力防災の実情を視察したり、アメリカ・ネバダ州の核廃棄物処分施設を見に行ったりもしていましたが、福島原発の重大事故に遭遇するまでは、所詮ひとごとでしかなかったと言わねばなりません。

いま福島に住んでいると、想像することもできなかった種類のさまざまなストレスがあります。一番やりきれないのは、福島で子育てをしている親たちに対する「善意の圧迫」です。また、ふるさとへの帰還を目指して努力する地方自治体に対する批判や攻撃も結構あります。県内の大学が学生を募集することさえ非難の対象になります。福島県産の農産物が売れないとか、震災がれきの広域処分に強い反対の声が上がるとか、慄然とした思いに駆られることが少なくありません。「あんたらカネをもらってきたじゃないか」と冷笑されることすらあります。

フクシマになり、さらにFUKUSHIMAになってしまった福島に住んで、考えていることをお伝えすることができればと思います。福島事故以来3度訪れたチェルノブイリの話もしましょう。

問合せ先 同窓会事務局 TEL 03(3247)0765